

平成30年8月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月9日

上場会社名 株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス
 コード番号 2927 URL <http://www.ams-life.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅山雄彦
 問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 土屋昭弘

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 平成30年1月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年8月期第1四半期の連結業績(平成29年9月1日～平成29年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第1四半期	3,844	6.5	269	6.6	260	5.1	177	66.7
29年8月期第1四半期	3,608	6.2	252	26.8	248	24.3	106	51.8

(注) 包括利益 30年8月期第1四半期 182百万円 (53.8%) 29年8月期第1四半期 118百万円 (45.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年8月期第1四半期	14.66	
29年8月期第1四半期	8.80	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年8月期第1四半期	16,955	7,785	45.9
29年8月期	16,761	7,663	45.7

(参考) 自己資本 30年8月期第1四半期 7,785百万円 29年8月期 7,663百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期		5.00		5.00	10.00
30年8月期					
30年8月期(予想)		10.00		10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年 8月期の連結業績予想(平成29年 9月 1日～平成30年 8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,700	5.0	620	36.0	600	35.9	350	53.1	28.90
通期	15,500	2.4	1,170	9.4	1,120	7.7	660	41.7	54.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年8月期1Q	12,189,720 株	29年8月期	12,189,720 株
期末自己株式数	30年8月期1Q	80,969 株	29年8月期	80,969 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年8月期1Q	12,108,751 株	29年8月期1Q	12,108,817 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期(平成29年9月1日～平成29年11月30日)におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善や個人消費に持ち直しの動きがみられるなど緩やかな回復基調が続きました。一方、海外経済の不確実性は強い状況にあり、国内経済を下押しする懸念要因となっております。

当社グループが属する健康食品市場は、消費者の健康維持・増進、美容・アンチエイジングに対する意識の高さから、引き続き堅調に推移するものと思われまます。また近年、自然由来の食品から栄養を摂取したいと考える消費者が増加しており、青汁や植物発酵エキス、オーガニックなど、形状もさまざまで消費者の志向が多様化しております。

このような状況の下、当社グループは、前期に引き続き青汁が好調を維持したことやプラセンタ商品の伸長により、OEM部門の売上高が前年同期比二桁増となったことが寄与し、当第1四半期の連結売上高は3,844百万円(前年同期比6.5%増)、営業利益は269百万円(前年同期比6.6%増)、経常利益は260百万円(前年同期比5.1%増)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に計上した特別損失が無くなった影響等より、177百万円(前年同期比66.7%増)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①ヘルスケア事業

・OEM部門

当社グループの基幹事業である当部門は、定番商材である青汁をはじめとした顆粒商品が好調を維持したことに加え、乳酸菌・酵母を主原料とした商品やプラセンタ商品が伸長いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期を上回りました。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、前期に続き、ベトナムのOEM顧客における美容商材が好調に推移したほか、シンガポールのOEM顧客において販売網の拡大による受注が増加いたしました。しかしながら、シンガポールのAFC代理店の落ち込みが影響し、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

・通信販売部門

全国紙へ継続的に広告を出稿しており、新規顧客の獲得や知名度の向上を図っております。また、当部門の機能性表示食品第二弾となる『イチョウ葉エキスGOLD』を昨年10月に新発売し、広告出稿や会報誌で露出を増やす等、販売促進活動を強化しております。インターネット販売においては、『葉酸サプリ』を始めとする「mitete(みてて)ブランド」商品の紹介などSNSを使用した施策に注力し、若い顧客層へのアプローチや囲い込みに努めました。それらの結果、当部門の売上高は前年同期並みとなりました。

・卸販売部門

販路拡大及び販売強化を目的として積極的に展示会や販売会へ出展いたしました。また、主に中国や東南アジアへ販売を行う国内の卸販売業会社から美容・ダイエット商品の問い合わせが増加しており商談を進めました。その結果、当部門の売上高は前年同期並みとなりました。

機能性表示食品については、今期中の発売に向け準備を進めており、ラインアップの強化を図ってまいります。

・店舗販売部門

百貨店外商部門主催の催事へ積極的に出展したほか、既存店舗においてはビジュアル・マーチャンダイジングの見直しを行ない見やすく買いやすい売場構築を推進いたしました。またスマホやパソコン及びLED照明の普及に伴い、従前よりルテイン商品が注目されており、昨年10月に機能性表示食品『RICH(リッチ)ルテイン25』の届出受理を受け、当商品が急伸びいたしました。しかしながら、店舗数の減少による減収が影響し、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高3,574百万円(前年同期比7.3%増)、営業利益411百万円(前年同期比12.1%増)(全社費用調整前)となりました。

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、新たな取扱製品を投入したことに加え、平成29年2月に承継したジェネリック医療用医薬品『ピムロ顆粒』(センナ下剤)については、既存工場を改築すると共に新たな機械設備を増設し、同年11月の承認取得後販売を開始いたしました。

また、一般用医薬品事業については、平成28年1月より㈱エーエフシーの通販事業において本草製薬㈱が製造する漢方薬の販売を開始し、一定の成果を上げたほか、平成28年6月よりチェーンドラッグストアと販売提携し広告投下による拡販が奏功いたしました。

しかしながら、本草製薬㈱において不採算品目の漢方製剤の販売を控えたことに加え、ジェネリック医療用医薬品の承認取得に係る費用が嵩み、医薬品事業全体では、売上高が270百万円(前期比3.0%減)、営業損失27百万円(前年同期は5百万円の営業利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ42百万円減少し、8,266百万円となりました。この減少要因は主として、商品及び製品が93百万円増加した反面、受取手形及び売掛金が90百万円、流動資産のその他が32百万円、現金及び預金が24百万円減少したことによるものであります。

②固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ235百万円増加し、8,688百万円となりました。この増加要因は主として、子会社の日本語学校やジェネリック医薬品製造設備に設備投資しており、有形固定資産のその他が170百万円、建物及び構築物が31百万円増加したことによるものであります。

③流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ161百万円減少し、7,587百万円となりました。この減少要因は主として、支払手形及び買掛金が82百万円、流動負債のその他が80百万円増加した反面、返済や長期借入金への借り換えにより、短期借入金が329百万円減少したことによるものであります。

④固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ233百万円増加し、1,582百万円となりました。この増加要因は主として、返済期限が1年以内に到来する長期借入金の借り換えにより、長期借入金が166百万円増加したことに加え、固定負債のその他が77百万円増加したことによるものであります。

⑤純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ121百万円増加し、7,785百万円となりました。この増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が117百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年10月10日の「平成29年8月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,391,777	3,367,148
受取手形及び売掛金	2,054,147	1,963,579
商品及び製品	989,951	1,083,457
仕掛品	772,267	757,633
原材料及び貯蔵品	795,000	823,935
その他	317,175	284,190
貸倒引当金	△11,365	△13,224
流動資産合計	8,308,954	8,266,720
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,702,423	2,733,712
土地	4,109,859	4,109,859
その他(純額)	1,153,424	1,324,085
有形固定資産合計	7,965,706	8,167,657
無形固定資産		
のれん	3,061	2,806
その他	100,006	106,504
無形固定資産合計	103,067	109,310
投資その他の資産		
その他	446,571	473,937
貸倒引当金	△62,556	△62,556
投資その他の資産合計	384,015	411,381
固定資産合計	8,452,789	8,688,349
資産合計	16,761,744	16,955,070
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,884,206	1,966,395
短期借入金	4,481,958	4,152,738
未払法人税等	138,220	110,489
賞与引当金	136,500	166,825
ポイント引当金	14,803	16,974
その他	1,093,268	1,173,846
流動負債合計	7,748,956	7,587,268
固定負債		
社債	60,000	60,000
長期借入金	445,022	611,154
役員退職慰労引当金	171,013	153,662
退職給付に係る負債	269,383	276,784
負ののれん	2,253	2,112
その他	401,375	478,564
固定負債合計	1,349,047	1,582,277
負債合計	9,098,003	9,169,546

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,469,539	1,469,539
利益剰余金	4,856,824	4,973,845
自己株式	△59,284	△59,284
株主資本合計	7,672,578	7,789,598
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△8,837	△4,074
その他の包括利益累計額合計	△8,837	△4,074
純資産合計	7,663,740	7,785,524
負債純資産合計	16,761,744	16,955,070

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成28年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成29年11月30日)
売上高	3,608,808	3,844,891
売上原価	2,477,375	2,703,045
売上総利益	1,131,432	1,141,846
販売費及び一般管理費	879,087	872,836
営業利益	252,344	269,009
営業外収益		
受取利息	17	13
受取配当金	204	1,915
受取賃貸料	4,635	5,362
負ののれん償却額	140	140
損害賠償金収入	4,377	—
助成金収入	2,681	—
その他	3,202	3,301
営業外収益合計	15,260	10,733
営業外費用		
支払利息	16,938	16,187
その他	2,628	2,879
営業外費用合計	19,566	19,066
経常利益	248,038	260,676
特別利益		
投資有価証券売却益	6,562	—
補助金収入	24,000	—
債務免除益	12,675	—
特別利益合計	43,237	—
特別損失		
固定資産除却損	2,954	—
役員退職慰労金	224,475	—
特別損失合計	227,429	—
税金等調整前四半期純利益	63,846	260,676
法人税、住民税及び事業税	91,402	96,498
法人税等調整額	△134,077	△13,386
法人税等合計	△42,674	83,111
四半期純利益	106,520	177,564
親会社株主に帰属する四半期純利益	106,520	177,564

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成28年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益	106,520	177,564
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,034	4,762
その他の包括利益合計	12,034	4,762
四半期包括利益	118,555	182,327
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	118,555	182,327
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年9月1日 至平成28年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,329,614	279,194	3,608,808
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	3,329,614	279,194	3,608,808
セグメント利益	366,615	5,085	371,701

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	371,701
全社費用(注)	△119,356
四半期連結損益計算書の営業利益	252,344

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年9月1日至平成29年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,574,055	270,836	3,844,891
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	3,574,055	270,836	3,844,891
セグメント利益	411,114	△27,966	383,147

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	383,147
全社費用(注)	△114,138
四半期連結損益計算書の営業利益	269,009

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。